

Designing beyond Design.

Create a Mindful Future, Together



Japan Industrial Design Association

JIDA ANNUAL REPORT 2024-25

2024年度 JIDA事業報告書

目次

1	JIDAとは / 組織図
2	ごあいさつ
3－4	2024年度事業概要
5－6	資格付与事業 － デザイン検定委員会
7－8	ミュージアム事業 － ミュージアム委員会
9－12	調査・研究事業 － 素材加工研究委員会 － 社会課題研究委員会 － プロフェッション委員会
13－14	交流事業 － 団体交流委員会
15－16	体験活動事業 － 学生支援委員会
17－18	セミナー他事業 － 研修・企業交流委員会
19－30	地域事業 － 地域事業概要 － 活動ブロック図 － 東日本ブロック － 中部ブロック － 北陸ブロック － 関西ブロック － 西日本ブロック
31－32	広報 － 広報委員会 内務 － 総務委員会 － 財務委員会
33－34	新入会員紹介

JIDAとは / 組織図

日本で唯一のインダストリアルデザイン全国組織

Japan Industrial Design Association

公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会（JIDA）は、プロフェッショナルなインダストリアルデザインに関する唯一の全国組織です。その前身は、1952年に創立された「日本インダストリアルデザイナー協会」であり、2021年に「日本インダストリアルデザイン協会」へと改変致しました。

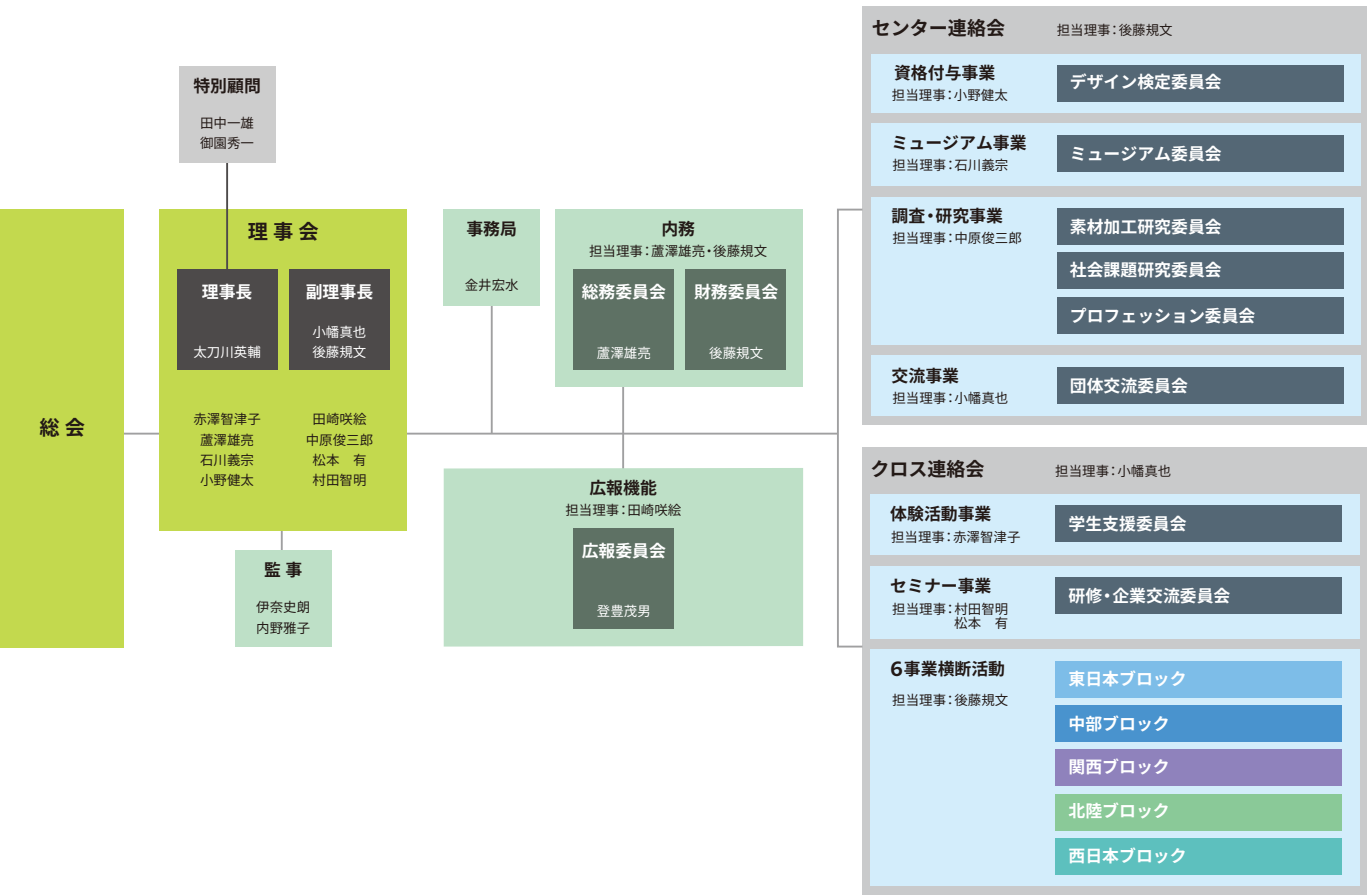
インダストリアルデザインは、量産を前提とした工業製品の「使いやすさと美しさ」の追求を目的とし、モノづくりに関わるデザイン領域として発展してきました。そして今日では、産業全般にわたる領域を対象とするだけでなく、その手法・意味・役割などを大きく拡げています。もはやインダストリアルデザインは、従来の製品開発のみならず、人々の生活体験や価値の創造へと展開し、「社会・経済の持続的発展」と「生活文化の向上」を使命として活動しているのです。

JIDAの具体的な活動対象は、資格付与、セミナー、体験活動、ミュージアム、調査・研究、交流という公益6事業が中心となっています。また、これらの活動と

ともに、会員相互の情報共有や職能支援をおこない、プロフェッショナルな能力の向上に努めています。こうした活動は、相乗的にインダストリアルデザインを深化充実させ、変化を続ける社会に貢献するものとなっています。

JIDAの組織としては、全国横断的なセンター活動と、5つの地域ごとのブロック活動により構成されています。センター活動は公益6事業を中心的に、国内外でのインダストリアルデザインの普及啓発をおこなっています。また、各ブロック活動ではセミナーやワークショップを通じて、インダストリアルデザインの価値向上と地域の活性化を進めています。

このようにJIDAは長い歴史と実績を背景として、常に社会と時代の変化に目を向け、インダストリアルデザインを通じた心豊かな未来への共創を目指して歩み続けています。



ごあいさつ

理事長 太刀川 英輔

Eisuke Tachikawa, President



JIDAは1952年の創立以来、産業と社会を支えるデザインの価値を追求し続け、日本におけるプロフェッショナル・ネットワークとして歩んでまいりました。2024年度は、コロナ禍を経て再びリアルな交流や国際的なネットワークが活性化し、国内外のデザイン団体や企業、教育機関との連携を深める年となりました。特に、3か国合同の国際学生デザインワークショップ（ISDW）が3年に1度の日本開催となり、大きな成果を上げました。AXIS社、三菱UFJ国際財団、他ご協賛いただいた各社、また会場を提供してくださった千葉工業大学には心から御礼申し上げます。

他の海外団体では、韓国・釜山デザイン振興院、香港デザイン協会、北米・IDSA、スイス・Three C Group、中国・Supor社などとの交流が始まりました。国内では、DOO（日本デザイン団体協議会）合同イベントの開催など、国境や分野を越えたネットワークを形にしました。

JIDA事業としては、デザインミュージアム事業、調査・研究事業、デザイン検定事業が堅調に推進され、協会を支える大きな3本柱として安定した存在に成長しています。今後、更に事業を育て、何が4本目の柱になるか楽しみです。

振り返ると、2021年6月に40歳で歴代最年少理事長を拝命してから2期4年、あっという間でしたが充実した日々でした。就任時は右も左もわからない新米理事でしたが、田中一雄前理事長から受け継いだバトン、そして多くの方々に支えられ、たくさんの挑戦ができました。

この4年間で目指したのは5つの変革でした。第一に、社会におけるデザインの重要性を日本に広く認識してもらうこと。日本はデザインの政策的重要性が各国に比べて低いと感じています。経産省でも4年間デザイン政策に関わり、産業界にデザインの価値を伝え続けました。

第二に、デザインを創造的教養として教育に広げること。デザインは創造性のための一般教養です。プロダクトデザイン検定をJIDAデザイン検定ヘリブランディングし、より多くの人がデザインを学ぶ第一歩となることを願っています。

第三に、日本のデザインを世界に再接続すること。世界的に評価されているのに日本のデザイナーは外に出ていけない。この課題意識から、WDO（旧ICSID）理事に就任しました。JIDAからは榮久庵憲司さん、木村一男さん、田中一雄さんに続く理事就任となり、理事長としては榮久庵さん以来約50年ぶりです。34年ぶりの世界デザイン会議を東京で開催し、RED DOTやBETTER DESIGN AWARD、Global Design Awardなど国際デザイン賞との提携も推進しました。

第四に、分断されたデザイン領域を繋ぐこと。幹事団体理事長として2年間、日本デザイン団体協議会の再活性化に取り組みました。1966年以来続いたD8という名称をDOOへ変更し、日本デザインサミットと称する合同イベントを開催。7団体代表が一堂に会する歴史的な場を実現しました。

第五に、JIDAのルーツを理解しバトンを未来につなぐこと。70周年を機に「デザイナー協会」から「デザイン協会」になりました。これは10年近く前にビジョンコミティーとして関わった頃からの念願でした。

特に感謝したいのは、僕を信じてバトンを渡してくださった田中一雄前理事長。1期目副理事長の御園秀一さんと蘆澤雄亮さん、2期目の後藤規文さんと小幡真也さん。そして全理事の皆さま、金井宏水事務局長をはじめとする事務局の皆さま。皆さまのサポートなしには、この4年間の変革は実現できませんでした。そして理事長のバトンは、私が心から尊敬する村田智明さんにお渡ししました。村田さんなら、JIDAをさらに素晴らしい場所にしてくれると確信しています。1952年、柳宗理・剣持勇・渡辺力ら25人が始めたJIDA。その歴史の一部を担えたことは私の誇りであり、日本のデザインにとってこのような歴史と志を持った団体があることが、私たちの誇りです。

デザインがもっと社会に浸透して、みんなの創造性が花開く未来へ。これからも一緒に進んでいきましょう。この4年間、支えてくださったすべての皆さま、本当にありがとうございました。

Designing beyond design.

2024年度事業概要

2024年度は、協会の安定的成長に向けた準備の年となった。まず、プロダクトデザイン検定を、従来の領域を超えて広い層への普及を目的とした「JIDAデザイン検定」への名称変更を実施し、試験問題の見直しと改定を実施した。さらに、「JIDAデザインスクール」の開校準備も進み、デザイン検定の講座も各自オンラインで受講できるようにコンテンツの制作に入った。

体験活動事業においては、恒例のISDW国際学生デザインワークショップが3年に1度の日本開催年であり、千葉工業大学の全面的な協力のもとJIDAが主幹団体として成功裏に完了することができた。また国内交流事業では、日本デザイン団体協議会（DOO）の活動が深化し、前年の試験開催だった「JAPAN DESIGN SUMMIT」がDOO内で正式委員会として発足することとなった。こうした取り組みを通じ、デザイン業界の各団体間の連携がさらに強化されている。

海外交流においては、ここ数年活発な交流や協力事業も盛んだった中国が、政治的影響からか24年度は非常に低調に終わった。逆に、調査研究事業による国内の研究事業は、23年度も拡大したが、24年度は更に拡大し活発に行われた。

（1）資格付与事業

《国民から信頼される職能の確立》

インダストリアルデザイン関連の人材育成のため知識の一定化を目指し、知識レベルを第三者からも評価されるよう検定を実施し、資格を付与する事業を2010年から行なっている。検定事業と関連出版事業の相乗効果を基本に運営している。

24年度は、デザイナーだけではなくデザイン周辺の幅広い分野の人々に受験して頂くことを目的として、プロダクトデザイン検定からJIDAデザイン検定に名称変更を行なった。それに伴い試験内容についても、領域の幅を拡大するために問題の改訂を行なった。24年度はその改定版を実装した新検定がスタートした年となったが、4月1日から5月15日の間は移行期間として受験を停止した。その影響からか、受験者数及び問題集販売は停止期間分程度の減少となった。

（2）セミナー他事業

《専門的知見の充実による社会貢献の推進》

専門的知見の充実による社会貢献の推進のため、インダストリアルデザインの普及啓発と人材育成の

ために重要な事業と位置づけ、24年度も各委員会やブロックが企画・運営するセミナーを各地で実施し、全体では20本、参加人数は500名以上となった。

（3）体験活動事業

《次世代人材の育成による国家基盤の充実》

デザイン系の学生や社会人または小学生までも対象とし、プロのデザイナーが体系的に教えたり一緒にワークショップを行なうなどの体験活動は、人材育成と交流に大きな役割を果たしている。以下以外にも、各地で開催される企業訪問や工場見学会なども含まれる。

1）国際デザインワークショップ（ISDW）

学生の国際的視野を広げるために、韓国インダストリアルデザイン協会（kaid）、台湾工業デザイン協会（CIDA）と共同で国際学生デザインワークショップを毎年開催している。24年度は、日本での開催となりホスト国として全体運営を行った。8月18日（日）～24日（土）、千葉県習志野市にて、学生は各国20名程度が参加し、国を横断したグループメンバーにより習志野市にてデザイン提案を行った。テーマは「まつり」とし、祖先とのつながりに触れる「祭り」について、各国の文化的背景の違いを理解しながら新しい時代の新しい祭りを提案した。最終発表会においては、各国理事のほか習志野市長も来場し好評のうちに終了した。

2）Next EcoDesignワークショップ

正会員のプロデザイナーが学生を指導しながらデザインワークショップを行ない、「未来をつくるデザイン」として2024年も様々なエコデザインに取り組んだ。21年目となる展示を東京ビッグサイト「エコプロ2024」内で開催した。

3）その他ワークショップ等

子どもの頃からモノづくりの体験をすることで創造性を養い、将来のデザイナーを育てる目的で行なう子どもデザインワークショップなどを実施した。

（4）ミュージアム事業

《デザインを通じた日本文化の高度化》

ミュージアム事業には主に2つの取り組みがある。ひとつは、デザインの優れた製品を顕彰するための審査・選定を行う事業。推薦品を公募し、当協会審査会が応募商品を選定する。更にその内容を公表するために展覧会の開催、図録の制作・配布を行なう。もうひとつは、選定品を収蔵・管理しながら、

インダストリアルデザインの世界を発信するための展示・公開を行う事業である。当協会事務局ショーウィンドウでの常設展示に加え、外部展覧会への協力、および、ウェブサイト「JIDAデザインミュージアム」の運営を継続的に行なっている。

26年目となった2024年度もすべての事業を滞りなく実施できた。日本の製品開発の進展とともに歴史を重ねており、産業振興、文化振興の観点から今後も継続することが期待されている。

1）デザインミュージアムセレクション

デザインミュージアムセレクションVol.26を実施した。244点の推薦品の中から当協会審査会による審査・選定、および、外部の特別審査委員によるゴールドセレクションの審査・選定を行い、その数は合計61点（ゴールドセレクション5点含む）となった。例年通り、AXISギャラリーでの展覧会、選定証授与式、および、図録の発行を実施した。図録は2,300部を発行し、国内外の関係団体、教育機関、図書館、美術館等に無料配布した。

2）デザインミュージアム

セレクションで選定された製品の中から寄贈を受けたものをストックヤードに収蔵、管理、展示した。2024年度のVol.26では24点の寄贈を受けた。これを活用し、当協会事務局に併設されているショーウィンドウ（JIDAデザインミュージアム in AXIS）で選定品の常設展示を実施した。また、ウェブサイト「JIDAデザインミュージアム」にてVol.26を収録、公開し、セレクションのアーカイブとして一層の充実を行った。

日本デザイン団体協議会（DOO）とともに、東京ミッドタウン・デザインハブ（六本木）で展覧会「Roots of Future」（9月20日～10月25日）を開催した。JIDAからは展示品として、収蔵・管理してきた選定品を数点貸し出した。

なお、選定品の保管用収蔵庫の移転、および、常設展示施設の増設を計画しており、2023年度は収蔵庫候補の旧校舎を視察し、2024年度は常設展示施設候補の図書館や公民館のエントランスホールを視察した。これにて両施設候補の視察が完了したため、自治体担当者と施設利用に向けた交渉を始めた。

（5）調査・研究及びその普及事業

《専門性の深化及び客観化》

調査・研究事業には、民間では提供できないデザインツールを使い易い形に開発し普及させる事業と、

デザイナーや関連産業に関わる人たちに役立つ専門情報を提供する事業、更に社会問題を解決する目的の調査・研究を行う事業と、知的財産に関する調査・研究事業などがある。

2024年度の専門情報を提供する事業では、計3回の勉強会を開催し52人の受講者が参加した。特に今年度の勉強会は、3回ともに現地での工場見学を含むリアルな生産現場を経験する機会となった。サンプル事業では、複数素材の在庫切れに伴う増刷に労力を多く費やした。社会問題を解決する目的の研究事業では、共同研究で得た知見を活用し、さまざまな問題に取り組むプロジェクトを立ち上げて社会実装へと繋げた。知的財産に関する調査・研究事業では、「秘密保持契約書（NDA）」の2025年リリースに向けて、Webでの利用を想定した具体的な運用の検討を始めるなど、24年度は全体的に活発な活動が行なわれた。

1）JIDA STANDARD SAMPLES と

KIDS DESIGN TOOLSの頒布

2024年度の頒布実績は全62冊と昨年度に比べ1.35倍の販売冊数だった。年度末に打ち出したキャンペーンが功を奏したと思われる。KIDS DESIGN TOOLSは低調な状態が続いているが、告知に力を入れ盛り返したい。

2）安全に関する調査研究事業

「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」として、最近の事故の事例や分析の報告をもとに事故予防に関する共同研究会を、例年通り隔月で6回実施した。

センサーテーブル測定台の実験テーブルの製作では、テーブルの各種手がかりとなる台座に、三次元で計測するセンサーを取り付けたテーブルの実験装置の設計と製作を行なった。さらに、段差昇降時のバランスを計測する壁面の実験装置の設計と製作を行なった。

安全装置が多様化された除雪機の機能アイデアを抽出することを目的にした研究を行なった。2回の「リスク低減デザインワークショップ」が企画され、1回目のWS（7月9日）では、目的の確認、除雪機能と構造の把握、除雪機の事故の現状、対策の考え方のヒントなどを共有し、解決策となるさまざまなアイデアを構想した。2回目のWS（7月31日）では、具体的な解決案のアイデアを呈示し、具現化に向けて構想を深化させた。

子どもが屋内で使用する遊具「巧技台」の安全基準を満たすデザインテーマは、民間企業からの受託

研究として24年度からスタートした。さらに同シリーズとして、海外に向けた新規開発商品のデザインコンセプトを立案し、24年度はその新巧技台システムの全体像と、製品化に向けた基本パーツの実施デザインを考案した。本件は25年度も継続し社会実装を目指す。

3）知財や契約と報酬に関する研究事業

日本弁理士会との共同研究会では知的財産関連の情報交換や法改正などの勉強会が行われた。東京都中小企業振興公社の「デザイン活用ガイド」は、前年度に引き続き受託し、監修作業を実施した。「契約書自動生成システム雛形制作」は、クラウド開発環境bubbleを利用して契約書自動生成システムの雛形を制作した。無料版では機能制限があり今後の開発に向けてはAI生成の比較もしながら、有料システムの導入を検討する。

（6）内外関係機関との交流及び協力を行う事業

《社会貢献及びデザイン価値の拡充発展》

内外の関係団体との交流を通して、インダストリアルデザインが社会ひいては人間生活のものに役立つという共通のテーマを、より一層深化させていく活動を行なっている。

日本のデザインやデザイナーに対するリスペクトを背景に、海外デザイン団体や企業から研修や展示会、アワードやコンペ実施などへの協力要請に応える事業を行なう。

近年最も依頼の多かった中国各地のデザイン団体からの事業協力への要請はほとんど無くなり、その分アメリカ、イタリア、スイスなど他の国との交流が始まった年でもあった。

1）国内関係機関との交流や協力

日本デザイン団体協議会（DOO）のメンバーとして年6回の定期会合に、理事長以下数名の役員が毎回出席した。また、10月20日には2回目のDOO合同イベントとして、東京ミッドタウンにてデザインの歴史を紐解く「ROOTS OF FUTURE 過去を探って、未来を見つける」展と、「ROOTS OF FUTURE Q × セッション」というトークセッションの開催に協力した。

東京都では、台東区、足立区、荒川区、葛飾区の4区に所在する中小企業にデザイン支援を行なうTASK事業を24年度も実施した。その他、中部ブロックではデザイン系大学の卒業制作展訪問と表彰、関西ブロックでは学生デザイン賞、北陸ブロックでは卒業制作展見学会を行なった。

2）海外関係機関との交流や協力

日本（JIDA）、韓国（kaid）、台湾（CIDA）の3カ国デザイン団体で構成するADA（Asia Design Assembly）代表者会議は、ISDWの中で開催されるため24年度は日本の千葉工業大学で開催された。太刀川理事長をはじめ、交流や体験活動の委員長など多くの主要メンバーが参加した。

新しく交流が始まった団体としては、北米デザイン団体のIDSA、イタリア Tigullio Design District、スイスThree C Group、香港デザイン協会（HKDA）、浙江省に拠点を置く家電機器メーカー Supor、World Industrial Design Association（WIDA）などがあった。

（7）共益事業

1）DPホットライン

主にフリーランスデザイナーを対象にした会員向け知財相談窓口「DPホットライン」を通年開設し、会員からの知財相談に対応している。2024年度も意匠登録の申請に関する相談や、知財に関するトラブル等が寄せられ、専門家が真摯に対応した。

2）会報誌

毎年一度、外部向け年間活動報告書として「アニュアルレポート」を編集・印刷し、広く一般に発信している。2024年度も2023年度のレポートを8月に800部印刷、内外の関係各所や全ての会員に配布した。

3）その他

東日本ブロックが配信するメールマガジン「東日本ブロックニュース」は2年目となり、定着してきた。今までは東日本ブロックの会員に限定して配信していたが、24年度から全会員に配信を始めた。他のブロックにも刺激になっている。公式サイトは大幅リニューアルを開始し、25年度には完成する予定で進めている。会員データベースを含む会員管理システムと経費精算システムを一体化したDXもあらたなシステムを導入し、移行の準備を始めた。



デザイン検定

JIDA Design Certification

[About](#) |
 [実施概要](#) |
 [参考テキスト](#) |
 [お申込み](#) |
 [Q&A](#)



JIDAデザイン検定®

デザインに関する知識は、デザイナーだけが必要とする知識ではありません。
 プロダクトデザインだけでなく、あらゆるクリエイティブに携わる人々を対象とした
 デザインに関する基礎・専門知識を測るための検定です。

「プロダクトデザイン検定（略称：PD検定）」は2024年5月に「JIDAデザイン検定」に名称を変更し、新たにスタートしました。

対象となる分野を少しずつ広げていく計画です。

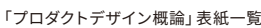
 © 2020-2024 プロダクトデザイン雑誌/公益財団法人日本インダストリアルデザイン協会/JIDA, Japan Industrial Design Association

デザイン検定
JIDA Design Certification

[About](#) | [実施概要](#) | [参考テキスト](#) | [お申込み](#) | [Q&A](#)

試験区分	JIDAデザイン検定 1 級	JIDAデザイン検定 2 級
受験資格	どなたでも受験可能	
出題形式	CBT試験一式、100問 90分 ※CBTとはComputer Based Testingの略で、試験会場のPCモニター上で回答する試験です。	
目標とするレベル	プログロトデザイン業務で使用される語句、概念について正しく理解し、自らも自由に使えるにまで至る。	プログロトデザイン業務で使用される語句、概念についておおよそ理解できる。
出題範囲	JIDA蔵書「プログロトデザイン [設計]」に掲載されている知識・情報に加え、プログロトデザイナーとして知っておくべき関連の知識・情報	JIDA蔵書「プログロトデザインの基礎」に掲載されている知識・情報に加え、プログロトデザイナーとして最低限知っておくべき関連の知識・情報
合格基準	正解した得点70点以上	正解した得点60点以上
試験結果	試験終了後、即時発行、スコアレポートが配布されます。 ※合格の約 1 週間後「資格登録証」と「合格者の掲載」について「JIDA」デザイン検定事務局よりメールを送付します。	

資格登録証取得者一覧



ミュージアム事業

日本のインダストリアルデザインの啓発と記録

ミュージアム委員会

ミュージアム事業は「セクション部会」、「ミュージアム部会」でできており、2025年度から「ギャラリー部会」を加えた体制になる。

セクションは昨年で26回目を迎えた。1998年に始まったこの取り組みは四半世紀にわたって優れたプロダクトデザインを選定し、展覧会によってその価値を共有してきた。委員会は60社あまりの企業と交渉し、これを実現しており、日本のインダストリアルデザインの現在を伝えている。また、ミュージアム部会は事務局ショーウィンドウでの常設展示、ウェブサイトの運営を通じて日本の優れたインダストリアルデザインを発信している。現在、常設展示スペースの増設を進めており、それはJIDAのサテライトとしての役割を担うものとなる見込みである。さらに、2025年度から事務局に併設されているJIDA Design Museum in AXISの有効活用のため、「ギャラリー部会」が広報委員会から当事業に移管される。これまでのミュージアム事業のノウハウを活かし、さらに充実したインダストリアルデザインの啓発を担っていく。

なお、当事業は日本デザイン団体協議会（DOO）と定期的に会合を行っており、他団体と展覧会を開催するなど、日本のデザイン界に広く貢献している。ミュージアム事業の昨年度の取り組みは、主に下記のとおりである。

1) Vol.26セクションの実施

一般、会員から広く推薦を募り、候補244点の中から61点を認定した。これを公表するために展覧会を開催し、その中で各メーカーを招いた認定式を開催した。また、展覧会の図録も刊行した。これは各メーカーから提供された画像や解説、審査員の意見を編集したもので、ウェブサイト「JIDAデザインミュージアム」でも公表されている。

2) 図録「JIDA DESIGN MUSEUM SELECTION Vol.26」の刊行

Vol.26セクションに認定された全ての製品の画像、メーカーの解説、審査員のコメントなどを編集し、国内外の美術館、大学などに無償頒布した。

・頁数:172

・図録制作:2,300部



トロフィー



Vol.26 図録

3) 展覧会「デザインミュージアムセクション Vol.26」の開催

「心豊かな未来の共創」をテーマに社会に寄与する優れたプロダクトを展示した。広報を行い、来場者が昨年の320名から428名に増加した。

・開催日:2025年1月16日(木)～20日(月)

・場所:AXISギャラリー

・展示数:61製品

・来場者数:428名

4) 選定証授与式の開催

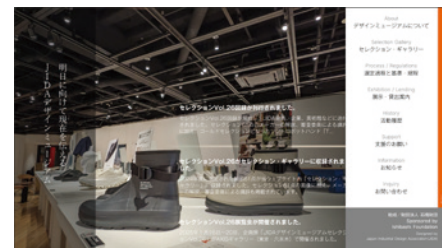
選定理由のアナウンスとともに理事長が企業関係者に選定証とトロフィー記念品を贈呈した。また、セクション委員長から本事業の意義や選考の過程に関する談話が述べられた。その後、審査員と企業関係者との交流会が催された。

・開催日:2025年1月21日(火) 14:00～18:00

・場所:AXISギャラリー



Vol.26 セクション展覧会



JIDAデザインミュージアムWEBサイト

5) 事務局ショーウィンドウ常設展示

デザインミュージアムセクション（選定品）の常設展示を年間を通して実施した。

第1期 展示品: Aerophone AE-20、KITOTE AIR SHOJI、Vgrip ナイフ・フォーク

第2期 展示品: Siphonysta、Bistro SR-V10BA、こぼしにくい器

第3期展示品: floate、nwm ONE、ネクストG

・開催日:2024年4月～2025年3月

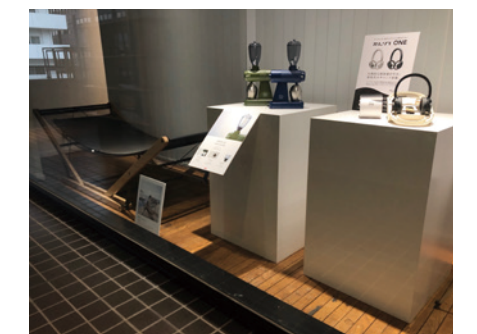
・場所:JIDA事務局 (AXISビル4F)

6) ウェブサイト「JIDAデザインミュージアム」の運用

これまでのセクションのアーカイブとしてウェブサイト「JIDAデザインミュージアム」を運用している。ここには過去26年分の製品の画像、製品解説、審査員コメント、開発ストーリーを含んだインダストリアルデザインの貴重な記録になっている。

7) 常設展示スペースの拡大

JIDA事務局以外にも常設展示スペースの設置を検討しており、現在候補地になっている茨城県笠間市にて現地視察を行った。笠間市は国指定の伝統的工芸品「笠間焼」で知られており、クラフトとインダストリアルデザインのコラボレーションを意識したキュレーションを行うといった企画も考えられている。



事務局ショーウィンドウ



常設展示施設候補の視察

Vol.26 セクション選定証授与式

調査・研究事業

専門性の深化及び客観化

素材加工研究委員会

インダストリアルデザインの現場で役立つ質の高い情報とツールの提供による社会貢献を目的として、2つの活動を行なっている。ひとつめに、様々な素材やその加工と表面処理などのサンプル集「JIDA STANDARD SAMPLES」と、子どもの安全をシミュレーションするツール「KIDS DESIGN TOOLS」の企画・開発および普及活動。二つめに、素材や加工技術に関する勉強会や見学会を企画して、日本の優れたサプライヤーから技術情報やデザインツールなどを学ぶ勉強会である。2024年度に開催した3回の工場見学は、実際に素材加工の生産現場を体験する貴重な機会になった。

(1) JIDA STANDARD SAMPLES の頒布

2024年度の頒布実績は全62冊。内訳は「1」:17冊、「2」:7冊、「3」:1冊、「4A」:9冊、「4B」:9冊、「6」:4冊。その他サンプルは合計13冊を頒布した。内訳は13冊、塚田理研:1冊、日本ペイント:12冊。

「1」と「2」と「4B」の3種は完成品在庫が残り少なくなったため、組立作業を行なった。「1」は廃版サンプルの仕分け作業、「2」は5冊、「4B」は3冊完成品にした。

(2) STANDARD勉強会

2024年度は、第103回、第104回、第105回勉強会を、見学会形式で開催した。日本を代表する製鉄および金属加工のダイナミックな現場を実際に見ることができた。コロナ禍では見学会を企画することが憚れたが、103回の製鉄所の見学会を口火に連続3回の金属系工場の見学会を企画し参加者から好評を得た。計3回の参加者は延べ52名。

第103回勉強会

●世界は鉄でできている:鉄づくりの現場を体感せよ
・講師:日本製鉄株式会社 (JIDA賛助会員企業) 薄板営業部 浜崎由基氏・塩田梨紗氏ほか
・開催日:2024年6月25日
・場所:日本製鉄株式会社 東日本製鉄所 君津地区

・参加者:26名

第104回勉強会

●見て、触れて、知る:ステンレスの新しい可能性をデザインに
・講師:日鉄ステンレスアート株式会社 開発部 白山和氏ほか
・開催日:2025年1月23日
・場所:日鉄ステンレスアート株式会社
・参加者:13名

第105回勉強会

●世界は鉄でできている:鉄づくりの現場を体感せよPartII
・講師:日本製鉄株式会社 (JIDA賛助会員企業) 瀬戸内製鉄所 首藤 努氏
・開催日:2025年3月13日
・場所:日本製鉄株式会社 瀬戸内製鉄所阪神地区 (堺) F-Tech.Plaza
・参加者:13名

社会課題研究委員会

社会課題研究委員会では、国の研究機関や民間企業などと共に調査・研究活動を行ない、そこで培った専門的な知見と技術を集積し、様々な社会問題の発見とその解決策を研究することで、社会に提案をするまたは実装につなげていく活動を行なっている。24年度もさまざまな課題に取り組むプロジェクトを立ち上げ、社会実装へと繋げる活動を行なった。

1) 産総研、消防庁との共同研究会

「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」として、最近の事故の事例や分析の報告をもとに、事故予防に関する共同研究会を行なった。
・開催日:4月17日、6月12日、8月21日、10月16日、12月11日、2025年2月12日の合計6回
・参加者:産総研3名、東京消防庁3名、東京科学大学教授1名と院生数名、NPO法人セーフキッズジャパン 理事長、JIDAメンバー23名
・開催場所:JIDAギャラリーおよび、ZOOM

2) 姿勢保持計測用テーブルおよび段差計測装置の制作

経産省が行なう高齢者関連製品の誤使用等事故対策検討事業の一環で、高齢者の身体保持に関わる実験を行なうための各種計測装置を研究し制作している。数年継続しているが、今年度は小さな突起が指掛かりとして身体保持にどれだけ有効かを測定するための計測装置を制作した。
一つは水平面上に出た数ミリの細長い突起を各種装着でき、センサーと連動した計測を可能にするテーブルを制作した。更に、表面の凹凸や質感によるテーブル面と手の平の摩擦効果も同時に計測できる装置にした。
もう一つは垂直面上に横向きで突出した同様の細長い突起が、段差昇降時のバランスを保持するための指掛かりとして有効な寸法を計測するための実験装置を制作した。写真のように、3mm幅で出っ張りが3mm、5mm、7mmの3種と、一般的な手摺でも計測できるよう設計した。7月～11月、参加メンバー3名。

3) テーブルに後付けできる突起形状の研究

東京科学大学が行なう高齢者の身体保持に関わる実験に協力し、テーブルの周囲に物理的な突状のレールを取り付けることで、身体保持効果が創出で

きるか? 効果があるとすればどの程度の高さや形状にすれば効果が見えるか? 等を実験するための各種形状のレールを考案し、試作した。R形状違い2種類×高さ5段階、合計10種類のレール(長さ400mm)を制作した。25年1月～3月、参加メンバー2名。実験は東京科学大学が行なった。

4) リスク低減デザインワークショップ(除雪機)

2)と同様に、経産省が行なう高齢者関連製品の誤使用等事故対策検討事業の一環で、除雪機の誤操作による死亡事故を低減することを目的とした事業に参画したものである。近年は自走式の除雪機が一般にも普及してきたが、安全装置があるにも関わらず、その安全装置を無効化して使用することで起こる事故が増えて問題となっている。そこで今回は、無効化できない安全装置のアイデアを抽出することを目的とした研究であり、2回の「リスク低減デザインワークショップ」が企画された。1回目7月9日(火)は目的の確認、除雪機能と構造の把握、除雪機の事故の現状、対策の考え方のヒントなどを共有し、解決策のブレinstroomingが行われた。2回目7月31日(水)では、具体的な解決案のアイデアを呈示し、具現化に向けて構想を深化させた。
(1回目)
実機見学と製品レクチャーを受ける。事故事例の紹介、事故原因の分析と解決策のアイデア抽出
・開催日:7月9日(火)
・場所:フジイコーポレーション株式会社(新潟県

燕市)

・参加者:経産省2名、産総研2名、JIDA3名、フジイ社員数名
(2回目)
JIDAからの解決策の提案 提案に対する意見交換
・開催日:2024年7月31日(水)
・場所:フジイコーポレーション株式会社(新潟県燕市)
・参加者:経産省2名、産総研2名、JIDA3名、フジイ社員数名

5) 新巧技台デザイン開発業務

民間企業から受託研究としてスタートさせたこの事業は、子どもが屋内で使用する遊具「巧技台」の安全基準を満たすデザイン研究がテーマであった。それに加え、海外に向けた新規開発のデザインコンセプトを立案し、24年度はその新巧技台システムの全体像と、製品化に向けた基本パーツの研究開発を行なった。本件は25年度も継続し社会実装を目指す。通年、参加メンバー8名。



第103回勉強会



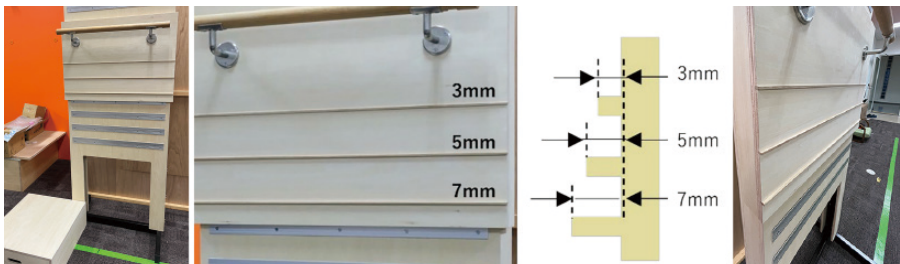
第104回勉強会



第105回勉強会



リスク低減デザインワークショップ(除雪機)



姿勢保持計測用テーブルおよび段差計測装置の制作



テーブルに後付けできる突起形状の研究



プロフェッション委員会

インダストリアルデザインが広く日本の産業社会で活用出来る為、定期的に委員会を開催し、また日本弁理士会意匠部会と連携した合同研究会、展示会の企画運営、DOO（デザイン団体協議会）保護研究会との共同研究、知財無料相談受付などを行った。また医・工・デザイン連携研究部会も医療機器デザイン関連の展示会への参加や研究会などを実施した。

1) JIDA-JPAA（日本弁理士会意匠部会）合同研究会
現在までにプロフェッションサイトにて公開している契約書雛形の「受託契約書式」「ロイヤルティ契約書式」に加えるべく今回より秘密保持契約書（NDA）の契約書式の開発と、それを確実に取り交

わすための運用手段などについても開発がなされた。契約書式の検討には委員などが普段実際に使用している十件以上の事例を比較して内容の吟味が行われた。次年度に公開予定にて進めている。

2) 知的財産オンラインセミナー「創作に関する秘密情報・成果物の保護・取扱」協力
「デザイン受発注や契約時の現状と問題点」について吉田（委員長）と河端（副委員長）がスピーカーとして登壇し解説した。
・参加者：200名

3) 展示会 企画運営
第8回パッケージデザインパビリオン in TOKYO PACK
（公社）日本包装技術協会からの受託事業。JIDA、

JPDA、JAGDA、JDB、CUDO会員が自社展示や、また関連セミナーを行った。パビリオンには特別企画エリアとして「メディカルエリア」を設定。また日本弁理士会無料相談ブースも設置した。
・開催日：10月23日～25日

4) デザイン活用ガイド 監修
（公財）東京都中小企業振興公社からの受託事業。デザイン活用ガイドのコンテンツ更新と装丁デザイン。

5) DOO デザイン保護研究会
定期的に開催されたデザイン保護研究会に委員が参加。各団体別による、著作権や産業財産権など特色別の知的財産権周辺の動向、契約、AIなどの最新情報交換が行われた。



プロフェッション委員会（ハイブリッド） 北村光彦委員の新社屋にて

6) 「医・工・デザイン連携研究部会」
月1回のペースで部会を開催し、以下のような活動、研究を行った。
●医療機器学会展示・メディカルショージャパン JIDAブース出展
・開催日：6月20日～22日
・部会メンバーによる今までの医療機器デザインの事例や取り組みの紹介（持ち回り制で継続実施中）
●ワークショップの企画（関西支部より）
検討中。次年度に向けて再検討

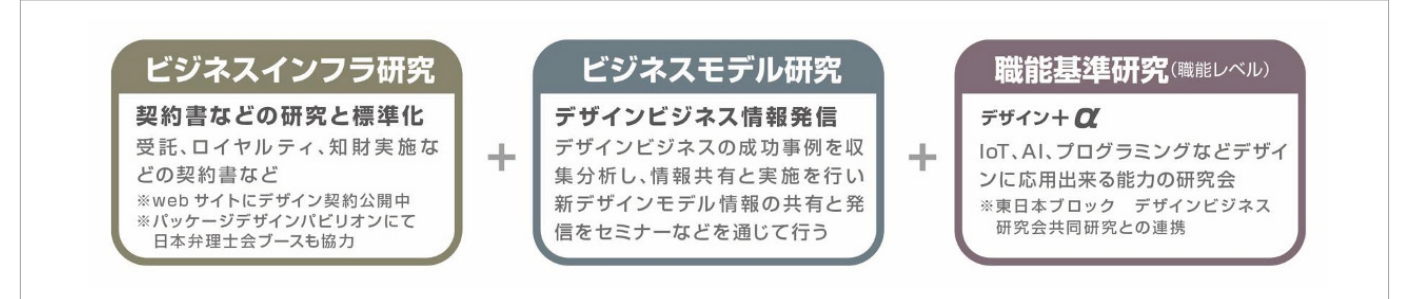
●医療従事者との座談会、ワークショップの企画検討中。次年度に向けて継続検討
●神戸大学からの委託研究
検討の結果、日程的に年度内の実施が難しいため次年度にあらためて相談
●医療機器フォント研究
医療機器に適したフォントについて、研究活動を推進中。サンプル作成、メンバーによる意見交換などを実施。今後は具体的な目標や成果の出し方について検討し、さらに積極的に活動を進めて行く予定。



創作に関する秘密情報・成果物の保護・取扱



パッケージデザインパビリオン



プロフェッション委員会3つの研究カテゴリー



デザイン活用ガイド・令和6年版 表紙



医・工・デザイン連携研究部会 メディカルショージャパン

交流事業

担当理事
小幡 真也



団体交流委員会 委員長
井上 雅弘



国内・国際連携を通して日本のデザインの価値向上に寄与する活動を推進

団体交流委員会

国内の活動に加え、コロナ禍以降で海外との対面による交流活動が本格的に再開された。特にコロナ禍で中断していた中国・美的集団とのセミナー事業が再稼働し、計画通り全プログラムを完遂できたことは海外交流の面で象徴的な成果であった。また、アジア地域からの関係深化を図る動きも随所にあられ、これまでの交流に加え、韓国・中国・香港など近隣諸国との新たなパートナーシップ構築が進展した。

■日本デザイン団体協議会（通称:DOO）での活動
国内の主要デザイン系7団体で構成するDOOの運営会に、理事長、副理事長、事務局長が出席し、以下のような重要なテーマに関する定期会合を実施。ジャパンデザインミュージアム設立研究委員会では、JIDAが特に注力するテーマであり、2024年9月～10月に開催された「ROOTS OF FUTURE」展（会場：東京ミッドタウン・デザインハブ）に共催として参加。同展は1950年代から2020年代までの日本のデザインを視覚的に振り返るとともに、未来への可能性を探るものであり、多くの来場者を集めた。デザイン保護研究会では、経産省や特許庁、弁理士会などと連携し、不正競争防止や知財保護に関する啓蒙活動を実施。広報委員会では、既存の

デザイナー紹介サイトの更新や、2023年に開催したDOO改名合同イベントの続編として、2025年度に合同イベント開催に向け準備中である。

■中国・美的集団へのデザイナー育成セミナー企画・実施

2018年度より継続してきた中国・美的集団空調事業部とのセミナーは、コロナ禍を経て2023年度から再開され、2024年度は全4回のうち後半の2回を実施し、当初のプログラムを完了。若手デザイナーを対象としたこのセミナーは、日本のデザイン関係者による直接指導の機会としてそれぞれ現地で高い評価を得た。

●テーマ：「Takramのデザイン方法論とアジア/日本の美意識」

・講師：Takram コンテキストデザイナー 渡邊康太郎氏

・開催日：5月29日（水）

・場所：中国・広東省佛山市

・参加者：26名（他オンライン参加者）

●テーマ「八つの概念による八つの作品」

講師：建築家／プロダクトデザイナー 黒川雅之氏

・開催日：7月30日（火）

・場所：中国・広東省佛山市

・参加者：約250名（オンラインなし）



渡邊康太郎氏



黒川雅之氏



中国・美的集団へのデザイナー育成セミナー

■Asia Design Assembly (ADA) およびISDWに関する連携活動

本年度は、体験活動委員会が実施したISDW (International Student Design Workshop) の日本開催を軸に、韓国・台湾・日本の3カ国による組織的な交流が活性化した。各国の状況共有、将来のアジアデザイン界を支える国際的枠組みについての調整と、そして次世代人材育成という観点などでも意義深い会合となった。

・Board Meeting：3月12日、8月23日

・Tutor Meeting：4月19日、6月14日

・第2回責任者会議：太刀川理事長、小幡副理事長、御園特別顧問らが出席

■新たな国際連携の取り組みやパートナーシップ

各団体から寄せられるジャパンデザインへのリスペクトや国際競争力の向上を目指す背景から、各団体との事業を模索中。

団体例：CJIDC（中日工業設計中心 中国・蘇州）／釜山デザイン振興院（韓国）／Supor社（中国）／香港デザイン協会／Three C Group(スイス)／IDSA（アメリカ）など。



体験活動事業

担当理事
赤澤 智津子

学生支援委員会 委員長
黄 ロビン

国際交流による次世代人材の育成を目指す

学生支援委員会

■ISDW (International Student Design Workshop)

2024年度は、日本が開催国となり実施された。

・開催日：8月18日（日）～24日（土）＊7月17日（土）事前オンラインミーティング

・場所：千葉県習志野市千葉工業大学 後援：習志野市／習志野市教育委員会

・参加者：参加学生（韓国・台湾・日本）57名

・チューター：6名

●テーマ：「MATSURI-Summer Festival (Bon Odori)」

日本では、先祖の霊を祀る行事としてお盆がある。おそらくどの国にも先祖や地域社会との絆を育む祭りがあり、こうした伝統は長い年月続いてきた。しかし近年では、世代間や地域内のつながりが弱まることによって、地域の祭りのあり方も変わりつつある。こうした状況をふまえ、新しい時代においての祭りを再定義した提案を目指す。

今回のワークショップは、開催地である習志野市を対象として行われた。初日にテーマである地域の祭りや神社を訪問、市役所の方に習志野の古い祭り、無くなった祭りなど紹介いただいた。翌日の文化体験では、事前に用意した8コースからグループごとに1つを選択し主体的に探索した。コースの中には、日本庭園の茶室にての本格的な茶会体験や、歌舞伎町タワーや周辺を企業の方にご案内いただくものもあった。そのほか千葉、東京、川越など、色々なルートでリアルな日本を体験した。

提案に向けてのワークショップ進行は、株式会社ハーズデザイン研究所／METAPHYS 代表の村田智明先生によりSSF法を使って実施された。多くの事例提示による丁寧な説明と適切なステップにより、異なる国のほぼ初対面の学生全員が活発に最終発表まで終えることができた。最終発表は、太刀川理事長をはじめとする各国ADAボードメンバーのほか、習志野市長をお迎えし実施された。

1週間の間、寝食を共にディスカッションを重ね、ひとつの提案を目指して協力する体験は国際交流という意味でも大変意義深いものであった。



8/19 Lecture / Fieldwork in Narashino City



8/20 Japanese Tea Ceremony



8/21 Brief presentation



セミナー他事業



デザインの普及啓発と人材育成をめざした新しい知見と基礎的セミナーの実施

研修・企業交流委員会

・講師：森田小百合 氏（キャリアコンサルタント）
一般社団法人アイポート

セミナー部会

・開催日：2025年3月14日（金）
・場所：AXISギャラリー
・参加者：7名

■デザインで活用できるAIセミナー

「画像生成AIを駆使し、デザインの可能性を広げよう」

画像生成AIの基礎知識、具体的な活用方法、法的課題のセミナー。アドビ株式会社の最新β版製品の紹介などAI活用の体験セミナーを開催。

・講師：岩本 崇氏 アドビ株式会社マーケティングマネージャー

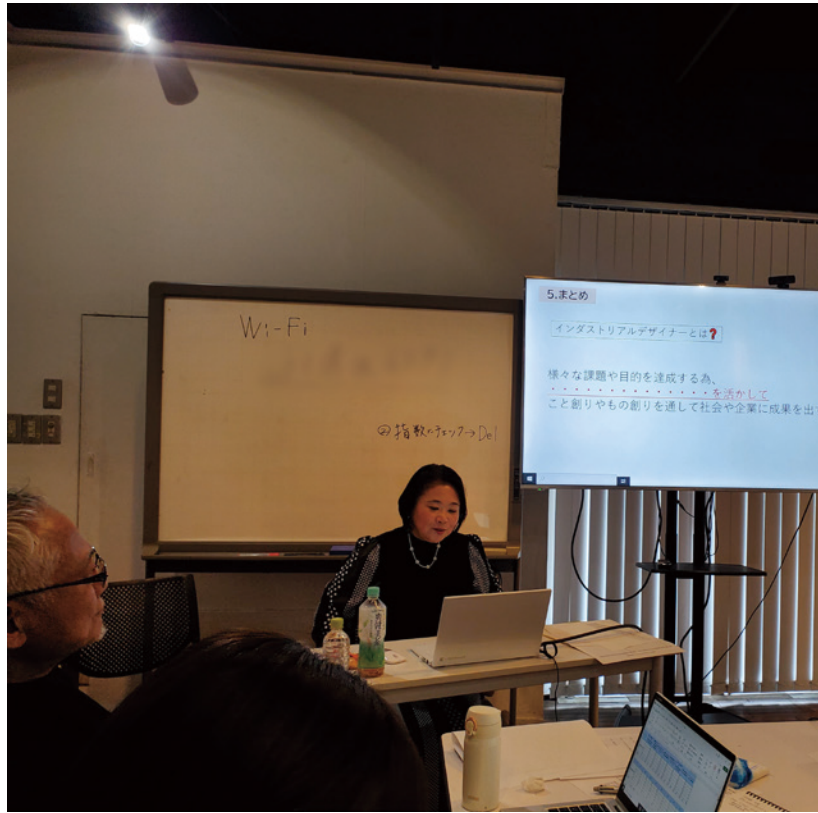
・開催日：2025年3月8日（土）

・場所：株式会社バッファロー 東京本社

・参加者：70名

■ワークショップ「デザイナー人生の棚卸」

経験の長短や業種やジェンダーを問わず、デザイナーが自分の人生を振り返り、これからの人生をデザインする、対面式ワークショップを開催。参加者は、過去の人生イベントを可視化しながら振り返り、講師からの観点や助言をもとに今後の活動を記述する体験をした。



ワークショップ「デザイナー人生の棚卸」

インハウス部会

■欧州デザインNOW

欧州トランスポートーションのデザインの現状に関して、3つの観点から報告会を実施。1)2023年度に開催されたIED夏季研修に参加した若手インハウスデザイナー 6名の作品発表会、2)欧州で急増する超小型EVに関する報告会、3)IED学部および大学院のスポンサードプロジェクトの事例。

・講師：井上真人氏 イタリア・トリノIED(Istituto Europeo di Design)

トランスポートーション学科教授。

・開催日：2024年4月22日（月）（交流会含む）

・場所：AXISギャラリー

・参加者：36名

■手描きアイデア・スケッチによるデザインワークショップ2024

アメリカでのカーデザイン経験が豊富な講師が、各種カーデザインを事例に、紙とペンやマーカーによる手描きドローイング技術を紹介。そして、参加者が描くスケッチに対して講師が直接手解きし、技術取得と描画の変化を体験した。また、「Eyes On

Design」と呼ばれる芸術性や革新性をあらわした先端のカーデザイン展示会の内容も報告された。

・講師：伊藤邦久氏

・開催日：2024年12月4日（水）（交流会含む）

・場所：AXISギャラリー

・参加者：15名

■JIDA女性インハウスデザイナー研究会 37期活動報告会

研究テーマを「ゆらゆらリテラシー」とし、AI、SNS、政治、お金、恋愛といった様々な分野の価値観を大切にしながら独自のリテラシーの在り方について、最終報告会を実施。本活動は各社から選出されたデザイナーが、全9回のディスカッションを行い、交流を広げるとともに多様な価値観を共有・創出する会として運営された。

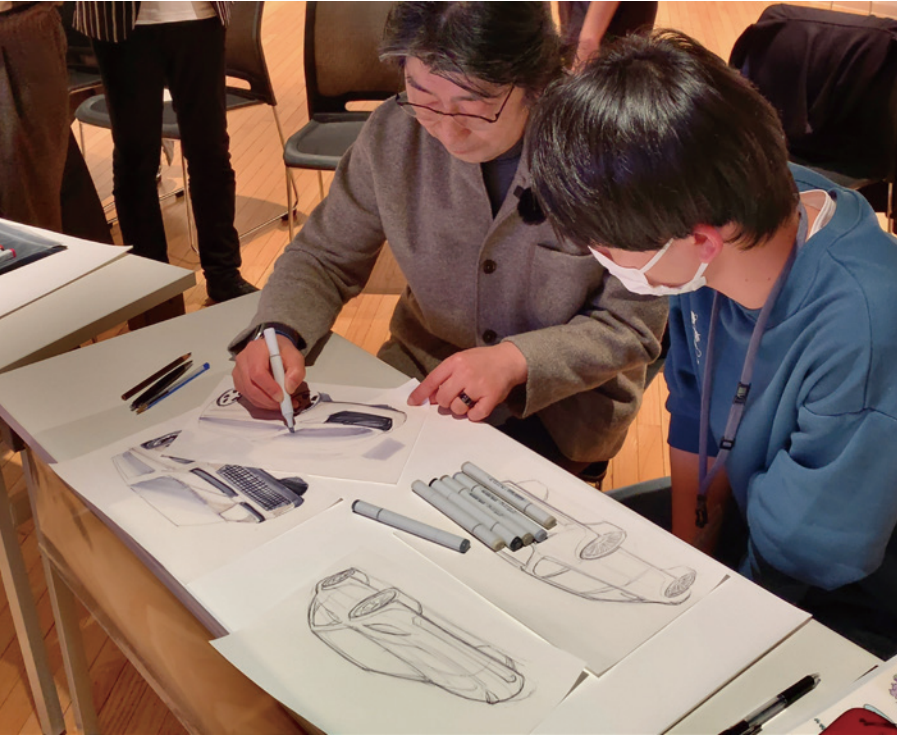
協力：いすゞ株式会社/株式会社GKダイナミックス/キヤノン株式会社/東芝テック株式会社/東洋製罐グループホールディングス株式会社/富士フイルムビジネスイノベーション株式会社/三菱電機株式会社

・開催日：2025年3月21日（金）最終報告会

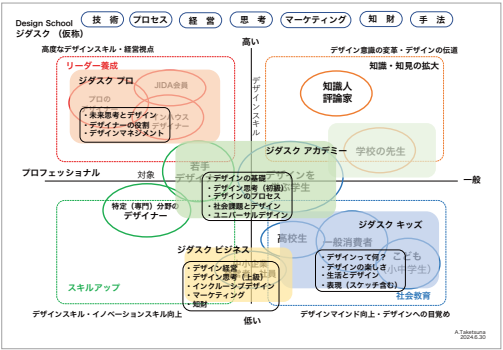
・場所：富士フイルムビジネスイノベーション株式会社

社 みなとみらい事業所ホール

・参加者：36名



手描きアイデア・スケッチによるデザインワークショップ



ジダスク コンテンツのジャンル分類図



欧州デザインNOW



JIDA女性インハウスデザイナー研究会 37期活動報告会



担当理事
後藤 規文

地域事業

ブロック間の情報共有と連携強化により、地域事業の活性化を狙う

地域事業概要

地域事業は、各ブロックとの情報共有を行い、ブロックの運営をサポートしている。理事会やセンター事業の報告を行いながら、各ブロックの事業やイベント、それぞれが抱えている課題などを共有し、理事会へ報告している。

■オンラインブロック長会議の開催

オンラインによるブロック長会議は、理事会の開催に合わせて、2～3ヶ月に1回程度の頻度で開催している。5ブロックのブロック長の他に、副ブロック長も含めたメンバー構成で、2024年度も4回開催し、各ブロックの近況報告やイベント情報などの情報交換を行った。その中で、毎回話題になるのが、地方ブロックの運営が疲弊している点であり、以下に状況をレポートとしてまとめた。

■地方ブロックが抱える問題

JIDAの正会員全体に高齢化が進んでいるが、地方ブロックではその影響が顕著に出始めている。特にボリュームゾーンである団塊世代の会員で活動から退かれる方が増えており、主力メンバーが減少している。特に中部、北陸ブロックは、コロナ後、活動メンバーの減少が進んでおり、それぞれ5、6名程度の少人数で運営している。また、西日本ブロックにおいては、2名の主力メンバーで看板を維持している状況である。ブロックの役員やイベントの主担当なども少ないメンバーで持ち回るため、活動内容や頻度によっては会員の本業に影響する場合もあり、モチベーションが維持できないとの声も多々聞かれる。

ブロックにおいて、イベントや活動が減少すると、その地方におけるJIDAの露出度が下がり、新しい会員との出会いの機会が減り、悪循環を引き起こす。地方によっては、デザイン行政の活性化が必要になっているところもあり、その場合の窓口にJIDAがリストアップされない状況が容易に想像でき、東日本、関西ブロックでも同様に問題視されており、抜本的な対策が急務。

■ブロック間交流の可能性

地方ブロックに所属する会員としては、活動は所属ブロックに限ったことではなく、センター事業や他のブロックが行うメジャーコンテンツに参加することもJIDA会員のメリットである。地方ブロックの負

荷が増えている状況下では、このベクトルを活性化する必要を感じており、2024年度、東日本ブロック主催のエコデザインワークショップに、中部ブロックより参加し、その可能性と有効性について試行した。

当方が指導している名古屋芸術大学IDコースの学生5名と共に、2024年7月から12月に開催されたワークショップに参加し、エコプロ2024にも出展した。毎年恒例となっているこの東日本ブロックのイベントは、学生や会員にとって魅力的であるが、地方からすると東京開催ということがハードルとなっており、オンラインなどを用いて、リモート参加の可能性を模索した。ワークショップの最終プレゼン（会場：東京ミッドタウン・デザインハブ）とNext Eco Design展2024（会場：東京ビックサイト）への搬入or搬出の2往復以外は、名古屋会場を設置し、オンラインによるリモートで参加した。ワークショップは主にmiro（オンライン型ホワイトボード）をベースに展開されるため、全く距離を感じなかった。また、遠隔からのオンラインプレゼンテーションは、初めのうちは多少の違和感もあるが、回数をこなすことでコツを掴み、十分に対応できた。参加した学生からの反応もよく、改善点などを聞き込み、2025年度は直接参加するタイミングを変更し、継続的に参加することとなった。

コロナ禍でオンラインによるイベント参加が定着



オンラインによるリモート参加

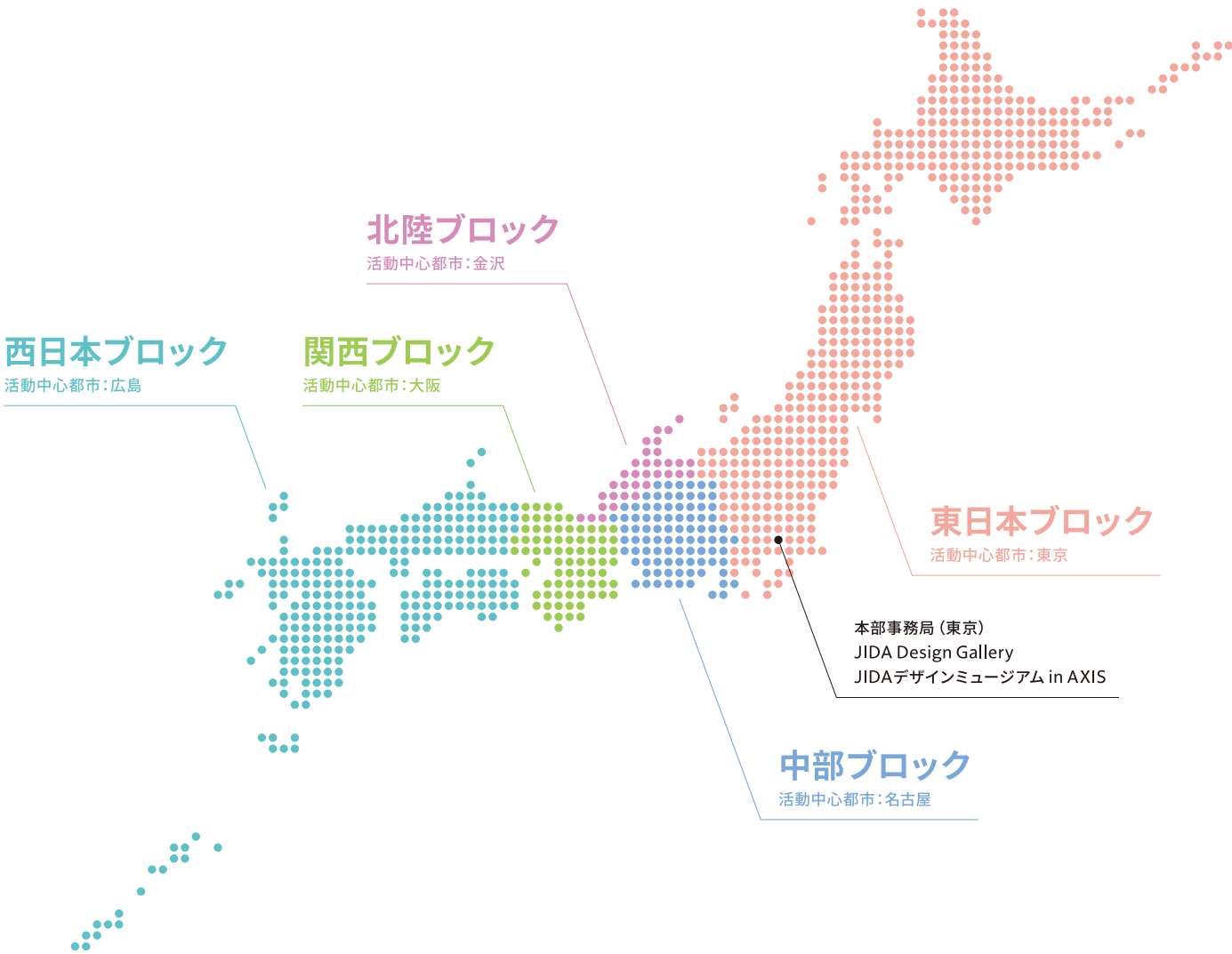


奨励賞をもらった学生と



エコプロ参加者

活動ブロック図



全国	正会員	個人	457	東日本	正会員	個人	289	関西	正会員	個人	89
		団体	23			団体	16			団体	3
	賛助会員	個人	22	賛助会員	個人	15	賛助会員	個人	3		
		団体	71		団体	46		団体	6		
	学生会員		12	学生会員		9	学生会員		3		
				中部	正会員	個人	43	西日本	正会員	個人	19
						団体	3		賛助会員	個人	1
					賛助会員	団体	15		団体	3	
				北陸	正会員	個人	13	海外	正会員	個人	4
						団体	1		賛助会員	個人	1
			賛助会員		個人	2					
					団体	1					

東日本ブロック

東日本ブロック ブロック長
高橋 翼



東日本ブロックでは、これまで東京以外の地域での活性化、子どもたちへのものづくり啓蒙活動、学校の枠を超えた学生交流の促進、さらに会員同士が直接顔を合わせ、活発に情報交換ができる場づくりを積極的に行ってきた。2024年度は、新たな挑戦にも果敢に取り組んだ一年となり、当初の予想を超える成果が多く見られた。特に、他ブロックや外部企業、地域コミュニティとの連携が広がり、JIDAの存在意義とデザインの力を社会に改めて示すことができた。

一方で、まだ十分に活用しきれていない東日本ブロックの大きな可能性も見えてきた。300名を超える会員のネットワークをさらに生かし、今後も「挑戦」と「共創」をキーワードに、より魅力的で意義ある活動を続けていきたい。

●プレミアム・インセンティブショー 2024 出展
副ブロック長：佐野 正
JIDAとして初の出展となった第69回プレミアム・インセンティブショー春2024では、東日本・西日本・中日本ブロックの会員が垣根を越えて協力し、持続可能性を意識したプロダクトを提案した。ブースでは「デザインが持続可能な社会づくりにどのように貢献できるのか」という問いを軸に、具体的な取り組みやアイデアを紹介。多くの来場者と活発に

対話し、持続可能性とデザインの未来について一緒に考える貴重な場となった。
JIDA 東日本ブロック エコデザイン研究会代表の本田圭吾氏によるエコデザインセミナーも開催され、実践的な知見が多くの参加者に共有された。「JIDAの活動から具体的なソリューションのヒントを得た」との声も聞かれ、JIDAの取り組みが社会に強い影響を与えることを実感した。
・開催日：2024年4月10日～12日
・会場：東京・池袋サンシャインシティ
・来場者数：32,594名

●東日本ブロックデー
ブロック長：高橋 翼
同日に開催された東日本ブロック総会の終了後、会員同士の交流を目的とした「ブロックデー」を開催。新入会員紹介、各委員会・研究会紹介を行い、JIDA内の繋がりを深める場となった。後半の懇親会では、世代や分野を越えた会員同士が積極的に意見交換を行い、未来のコラボレーションのきっかけが多く生まれた。参加者は昨年度を上回る43名に達し、東日本ブロックの結束力と温かいコミュニティの広がりを改めて感じる事ができた。
・開催日：2024年6月21日
・会場：AXISギャラリー
・参加者数：43名

●東京TASK デザイン活用支援事業2024
デザインビジネス研究会：小林 浩一
東京都台東区・荒川区・葛飾区の3区合同で展開されている産業振興施策「東京TASK」に、デザインビジネス研究会は2017年から参画。本年度も継続して、支援企業に対する個別デザイン相談を実施した。企業が抱える課題に対し、JIDA会員が現場に足を運び、デザイン視点から実践的なアドバイスを行うことで、地域企業の成長とデザイン活用の促進に寄与している。支援対象となったのは、ベビリュック専門店「noa」と、生花商品を扱う「株式会社節句田」の2社。noaには、学童向け新商品の開発支援として、試作品の精度向上や価格設計の助言を行い、着実に商品化に向けた進展が見られた。株式会社節句田には、パッケージデザインの改良から、商品名・ロゴのリニューアル、展示什器の開発まで一貫して支援。販路拡大を見据えたブランディングの強化に繋がった。
・実施期間：2024年7月～2025年2月
・場所：支援企業事業所、荒川区役所、オンライン、JIDAギャラリーなど
・支援企業：2社（noa、株式会社節句田）
・アドバイザー：デザイナー 4名

●TASK発表会
デザインビジネス研究会：北村 洋一
東京TASK支援事業の締めくくりとして、JIDAギャラリーで成果発表会を開催。支援企業と担当デザイナーがともに発表を行い、活動の成果やデザイン開発の過程を共有した。発表後の質疑応答では、デザインビジネス研究会のメンバーから建設的な意見が多く寄せられ、次年度以降への新たな可能性を感じさせた。なお、本事業の中心的存在であった

小林浩一さんは、成果発表会を目前に急逝されました。小林さんの多大なる貢献に感謝を込め、本活動の報告を捧げたいと思います。
・開催日：2025年3月27日
・場所：JIDAギャラリー

●六本木ミッドタウン 子どもワークショップ
運営委員会：神瀬 泰二
東京ミッドタウンで毎年実施される「ミッドタウン・

キッズワークショップ」に参加し、今年も「端材とネジを使ったキーホルダー製作」を開催した。多くの親子がものづくりの楽しさを体験し、環境への配慮や創造力を自然に学ぶきっかけを提供できた。JIDAならではのものづくり教育の大切さを感じた一日となった。
・開催日：2024年8月14日（水）
・場所：東京ミッドタウン
・参加者数：20名



プレミアム・インセンティブショー 2024



東日本ブロックデー

東 TASK
Trying・Approaching・Supporting・Keeping

時間が
あふれる
機会

令和6年度東京TASKデザイン交流会

デザイン活用交流

売れる商品を創る デザイン個別アドバイス!

2022年度
なまき工業 / アニマルマスクカバー

2019年度
トナ製作所 / ときこも

2024年度
(株) SECCOEN / hanacup

2022年度
ミユキ精工 / 箸トング

ものづくり
アワード21 受賞賞

大ヒット!

新販路の開拓や、新製品の開発にお悩みの、
中小事業者対象に、プロ工業デザイナーとの
マッチング・製品開発の個別相談です。

販売とつなぐ * 販売イベントへの
参加機会があります。

東京TASK
とは？

台東区、荒川区、葛飾区の3区で行う、
地域ものづくり産業の活性化を目指すプロ
ジェクトです。

【協力】 JIDA 公益社団法人 日本インダストリアルデザイン協会 デザインビジネス研究会 【主催】 東京 TASK 【事務局】 荒川区経営支援課

デザイナー訪問 個別アドバイス

商品開発にお悩みの企業へ、経験豊かな
デザイナーが御社へアドバイスを伺
います。(* 所定の要件があります。)

注：東京 TASK 地域内の中小製造事業者さまへ、ご
検討中のテーマや取り組みたい商品開発に、デザイナー
からアドバイスが受けられます。規定時間の範囲で、直
に相談ができる期間限定相談会です。

リモート
対応可

中小事業者向け

対・東京TASK地域所在の
家・中小製造事業者

応募締切：'24.7.12 まで
相談期間：'25.2.13 まで

東京TASK



ミッドタウン・キッズワークショップ

●電車ワークショップ in JR武蔵境駅

ブロック長：高橋 翼

JR中央線コミュニティデザインから依頼を受け、鉄道の日にはJR武蔵境駅で「電車ワークショップ」を開催。屋外での開催は初の試みだったが、好天にも恵まれ、駅を訪れた多くの親子連れで賑わった。参加者は電車型の木製の工作キットを楽しみながら組み立て、思い思いに色を塗り、世界に一つだけの電車を作り上げた。運営にはJIDA正会員の紹介で女子美術大学の学生も参加し、学生の現場経験の場としても意義深い活動となった。

- ・開催日：2024年10月12日（土）
- ・場所：JR武蔵境駅 nonowa Terrace
- ・参加者数：10組（20名以上）



電車ワークショップ

●Eco Design Workshop&Exhibition

エコデザイン研究会：本田 圭吾

21年目を迎えたエコデザイン研究会のワークショップでは、国内外の学生とプロのデザイナーが共に持続可能な未来を考え、デザインを通じた実践的な提案を生み出した。参加者は対面で、また遠方の学校はオンラインなどを駆使し、密度の高いディスカッションを重ね、着実に成果を形にしていた。

- ・キックオフミーティング（2024年7月14日／株式会社Too本社・虎ノ門）
- ・サマーワークショップ（2024年8月22日～24日／株式会社Too本社・虎ノ門）
- ・中間プレゼンテーション（2024年9月29日／インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター）
- ・最終プレゼンテーション（2024年11月10日／インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター）

特に、12月に東京ビッグサイトで開催されたNext Eco Design展（エコプロ2024内）では、名古屋芸術大学やUAEからの学生も初参加し、14校・学生28名・プロ15名による国際色豊かな展示が実現した。来場者は63,303名にのぼり、JIDAの活動を広く社会に発信することができた。

- ・開催日：2024年12月3日～6日
- ・場所：東京国際展示場
- ・来場者数：63,303名



Eco Design Workshopの様子



NIHO鎌倉 座談会



New Years Party 2025 賀詞交歓会

●鎌倉の地域性から感じるコミュニティスキルと産業デザインの関連性を語る座談会

デザイナーズスキル研究会：登 豊茂男

鎌倉にあるシェアリビングスペース「NIHO」を会場に、地域コミュニティの在り方と産業デザインの関係性について語り合う座談会を開催。観光地として賑わう鎌倉で、地域に根ざしたデザインとコミュニティ形成について、地元のデザイナーや起業家の実体験を交えながら学びを深めた。肩肘張らず、軽食を囲みながら行われた本座談会は、参加者同士の率直な意見交換が生まれ、地域デザインの可能性を改めて感じさせた。

- ・開催日：2024年12月13日（金）
- ・場所：NIHO鎌倉
- ・参加者数：17名

●New Years Party 2025 賀詞交歓会

ブロック長：高橋 翼

2025年の幕開けを飾る賀詞交歓会では、世界中を旅し、8000m級の山々14座を全て登頂した写真家・石川直樹氏を迎えて特別講演会を実施。壮絶な体験を淡々と語る石川氏の話に、参加者は終始惹きつけられた。スポンサー企業6社によるプレゼン、石川氏の写真集販売・サイン会、鏡開き、JIDA正会員が経営する飲食店のケータリングなど、多彩なプログラムを展開。例年以上に盛り上がり、100名を超える参加者が集まる大盛況の会となった。

- ・開催日：2025年1月30日（木）
- ・場所：AXISギャラリー
- ・参加者数：103名

●東日本ブロックニュース

副ブロック長：浅香 秋也

東日本ブロックの活動をより多くの会員に届け、接点を増やすために発行しているメールマガジン「東日本ブロックニュース」を、2024年度も毎月1日に配信。イベント案内、新入会員紹介、会員リレーコラム、展示会情報など、幅広い内容を通じてJIDAの「今」を伝え、会員同士のつながりを強化する重要な情報ツールとして定着している。

- ・毎月1日配信

中部ブロック

中部ブロックブロック長
水野 健一



2024年度の中中部ブロックは、「無理なく・意味ある活動」というスタンスのもと、デザインの力を地域や次世代に届ける取り組みを展開した。コロナを越えて再始動した昨年度の動きを受け、今年度は「JIDAという存在をもっと多くの人に知ってもらう」ことを意識した一年。企業やデザイナーの方々と新たなつながりにより、共感によって実現したイベントも多く、参加者との対話や発見の中で、JIDA中部らしい空気が広がつつある。会場提供や登壇協力をはじめ、外部との連携がスムーズになり、活動の質も一段と深まった。一方で、より多くの人に情報を届け、参加のハードルを下げることや、継続的な仕組みづくりは今後の課題でもある。こうした課題に対しても、JIDA中部ではこれまで同様、現場視点の創意とネットワークを活かしながら、参加者・協力者双方にとって“関わる価値”のある場をつくっていききたいと考えている。

●特別セミナー「パナソニック・ラムダッシュ パームイン」開発の舞台裏

話題の新製品を手がけたデザインチームが語る開発秘話を、名古屋で開催。Too名古屋オフィスの協力を得て、参加者35名の熱気あふれる場となった。
・開催日：5月24日（金）
・会場：Too 名古屋
・協賛：パナソニック株式会社・株式会社Too
・参加者：35名

●中部ブロック総会 & JIDA総会・デザイントークイベント

浜松のヤマハ イノベーションロードを舞台に、中部ブロック総会とJIDA総会を同時開催。「ヤマハデザインが大切にしていること」をテーマに、法人賛助会員のヤマハ株式会社 川田学デザイン研究所所長の講演会。
・開催日：6月15日（土）

・会場：浜松「FUSE」+ヤマハイノベーションロード
・協力：ヤマハ株式会社
・参加者：20名

●JIDA Student Selection 2024

大学3年生を対象に、前期課題での優秀な作品を各校から推薦。講評・プレゼンテーションの場を設け、企業デザイナーによる公開レビューを実施しました。学生と企業の橋渡しとなる、中部ブロックの核となるイベント。
・開催日：9月2日（月）
・会場：Fab Café Nagoya
・協賛：株式会社Too
・参加者：学生10名・6大学

●交流イベント「デザイン講談 in 岡田」

知多木綿の産地としても知られる知多市岡田の町並みを舞台に、地域の文化や観光を再発見する

フィールド型交流会を開催。勝崎会員の案内により、地元の歴史と対話を深めた。
・開催日：10月26日（土）
・会場：知多市岡田
・参加者：4名

●特別セミナー「夢をデザインしてきたハナシ」

トヨタのビジョンデザイン部で活躍する永津氏を招き、創造の現場での実体験を共有。企業デザインのリアルに触れる貴重な機会となった。
・講師：トヨタ自動車株式会社 永津直樹氏
・開催日：11月30日（土）
・会場：株式会社Too名古屋オフィス
・参加者：25名

●Beyondサロン「俺たちの推しデザインを語る会 2024」

デザイナーたちが各自の“推しデザイン”を持ち寄

り語り合う、気軽で自由な交流の場。JIDA中部らしい温かい空気が流れる忘年会イベントとして定着しつつある。
・開催日：12月29日（日）
・会場：国際デザインセンタービル 7階ラボ2
・参加者：6名

●新年講談「2つのグローバル化の先にあるもの」
元ブラザー工業の森下氏が、ニューヨークでの実体験とそこから見える“グローバルなデザイナー像”を語る講談スタイルのトークを展開。デザインの過去と未来を結ぶ興味深い内容であった。
・登壇者：森下眞行氏
・開催日：1月18日（土）
・会場：魚屋の台所 下の色
・参加者：12名

●卒展キャラバン



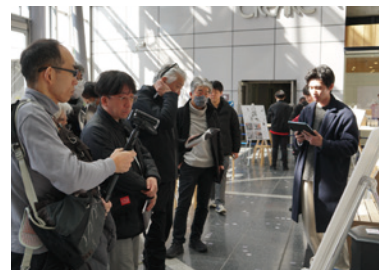
「パナソニック・ラムダッシュ パームイン」開発の舞台裏



中部ブロック総会 & JIDA総会・デザイントークイベント



JIDA Student Selection 2024



卒展キャラバン

北陸ブロック

北陸ブロック ブロック長
藤田 愛二



2024年1月1日の能登半島地震と豪雨災害と続き、甚大な被害で復興の中での年度となった。北陸ブロックにおいては、会員の多忙などで人力の不足もあり独自にイベントを開催することも難しい状況であった。会員の工夫とアイデアと協力で、福井県の「RENEW」のイベントの見学会という形で、開催に至った。

北陸ブロックは3県だけの小さなブロックだが、ブロックメンバーとの交流や意見交換も円滑にできる環境であり、今後も工夫しながらJIDA活動を続けられればと考えている。

この他には、定期開催の大学の卒業見学を開催し、今年度は新たに金沢学院大学が増え、福井工業大学・金沢美術工芸大学・富山大学と、4大学の卒業制作展を訪問し、学生も交えて意見交換を行った。

- 【4,700年の歴史に触れる旅「RENEW見学ツアー」を開催】
- 越前漆器・越前和紙・越前打刃物・越前筆筒・越前焼といった伝統工芸や、眼鏡・繊維などの伝統産業の工房を見学し、職人さんと触れ合えるイベント「RENEW」の見学ツアーを、2日間にわたって開催。JIDA会員以外も含め、全国から計12名にご参加いただいた。
- ・開催日：11月2日（土）・3日（日）
 - ・場所：うるしの里会館 / 株式会社 漆琳堂 / ろくろ舎 / 丸廣意匠 / 株式会社 ラ・クラ / 株式会社 長田製紙所
 - ・参加者：計12名
- 【デザイン教育トレンド発信 卒業制作展見学会】
- 「北陸学院大学卒業制作展」
 - ・開催日：2月2日（日）

- ・場所：金沢21世紀美術館
 - ・参加者：JIDAメンバー 3名
- 「福井工業大学卒業制作展」
- ・開催日：2月8日（土）
 - ・場所：福井市美術館 アートラボふくい2階
 - ・参加者：大雪の為、各自自主参加
- 「富山大学芸術文化学部卒業制作展」
- ・開催日：2月16日（日）
 - ・場所：高岡市美術館&高岡キャンパス
 - ・参加者：JIDAメンバー 4名
- 「金沢美術工芸大学卒業制作展」
- ・開催日：2024年2月24日（木）～3月1日（水）
 - ・場所：金沢21世紀美術館 市民ギャラリーほか
 - ・参加者：JIDAメンバー 6名



卒業制作展（金沢美術工芸大学）



RENEW見学ツアー



卒業制作展（富山大学）

関西ブロック

関西ブロック ブロック長
川畑 大助



関西ブロックでは学生コンペ、勉強会など、これまでの活動内容を踏襲しながら、募集即日で定員となるほど人気のあるモビリティ見学会、大阪中之島美術館で100名規模で開催されたONE DAY DESIGN ACADEMY 2024、10回目となる学生コンペ、勉強会など、人が集まる企画をベースに参加者の結果を振り返りながら、他にどんな企画が会員の満足度を上げるのかを、さらに情報共有できる年度になった。

【小国のデザイン力と背景にある教育～デンマーク～】

デンマーク在住の講師から、その事例を生活者、母親、またアーティストの視点でご紹介いただきながら、参加者と共に考察する機会となるセミナー

- ・開催日：6月6日（木）18:00～20:00
- ・場所：大阪デザインセンター セミナールーム
- ・参加者：19名

- 【JIDA関西ブロック 2024年度通常総会】
- 定期総会
 - 事業報告、会計報告、新運営委員選出など
 - 講演会<今更聞けないクラウドファンディング>
 - 講師：株式会社マクアケ 武田康平様（ウェビナー）
 - 懇親会
 - JIDA関西ブロック恒例のオークションを開催
 - ・開催日：6月29日（土）15:00～17:00
 - ・場所：ブライトンペル（本町）
 - ・参加者：総会22名（JIDA会員） 講演会27名
- 【ONE DAY DESIGN ACADEMY 2024】
- <Session 1>
 - 「新しいインダストリアルデザインプロセスとしてのVRプロトタイピング」（講演+VR実演）
 - ・登壇者：kaimen Prototyping 代表 長崎陸氏、kaimen Prototyping VRエンジニア ソン・シウ氏、株式会社GK Kyoto 第3デザイン部 シニアデ

デザイナー 石田祐基

- <Session 2>
- 「3種のモビリティはどう変わる!?」（トークセッション）
- ・登壇者：カワサキモータース株式会社 デザイン部 植木匠氏、近畿車両株式会社 顧問 南井健治氏、ダイハツ工業株式会社 デザイン部 大岡峻氏
- <Session 3>
- 「インダストリアルデザイン。それは進化のプロセス」（講演）
- ・登壇者：NOSIGNER株式会社 代表 / JIDA 理事長 / WDO理事 太刀川英輔氏
- ・開催日：9月28日（土）13:00～17:15
- ・場所：大阪中之島美術館 1階ホール
- ・参加者：105名



小国のデザイン力と背景にある教育～デンマーク～



定期総会、オークション



ONE DAY DESIGN ACADEMY 2024

【USD-Oチャリティー絵馬展】

デザイナーたちが自作の絵馬を持ち寄り、展示・販売し、その売上収益金を大阪府福祉基金に寄付するというもの

・開催日:1月7日(火)～24日(金) 10:00～18:00

・場所:大阪デザインセンター

・参加者:JIDAより絵馬出展6名、JIDA立番2名

・落札数:50作品

・落札額:165,325円

・入場者数:452名

【デザイナー向けビジネス英会話勉強会】

●ネゴシエーションとプレゼンテーション

生徒のレベルが非常に高く、仕事で英語を使っている人が多かった。ロドリゲス氏制作のテキストを配布した。20ページほどあり資料としてのレベルが高かった。会話の中で使われる大事な言葉(ルーティ

ン言語)を紹介して参加者の満足は高かった。

・開催日:第1回1月31日(金) 16:00～18:00、第2回2月7日(金) 16:00～18:00

・場所:大阪デザインセンター セミナールーム

・参加者:11名

【ダイハツ工業株式会社見学会】

カーデザイン開発概要説明、外形/内装モデル・パッチャルモデル、CANBUS開発事例紹介、コペンファクトリー ヒューモビリティワールド見学

・開催日:2月21日(金) 13:30～17:30

・場所:ダイハツ工業株式会社 デザインセンター

・参加者:26名

【JIDA 関西ブロック学生デザイン賞 表彰式&教育フォーラム】

●全国のデザイン系学生向けデザインコンペ

テーマ:24H /あなたの日常に寄り添う刃物

表彰式&貝印株式会社より基調講演

・講師:貝印株式会社 上席執行役員/CMO/マーケティング本部 副本部長 鈴木 曜氏

・開催日:3月22日(土) 13:00～17:00

・場所:大阪デザインセンター セミナールーム

・参加者:最終提出者66名

・表彰:最優秀賞1点、優秀賞2点、貝印賞1点、JIDA賞2点、計6点

・教育フォーラム:22名

【JIDA関西ブロック新入会員歓迎会】

来年度に向けてJIDAに期待することなど情報交換を行なった。

・開催日:3月29日(土) 18:00～20:00

・場所:ブライトンベル(本町)

・参加者:2023、2024年度の新入会員3名、運営委員8名

【関西ブロック運営委員会】

・全10回開催

・場所:イグレス様ショウルーム&ZOOM、大阪デザインセンターセミナールーム&ZOOM

【USD-O理事会】

・全4回開催

・場所:大阪デザインセンター &ZOOM

・参加者数:1名/回



ビジネス英会話勉強会



JIDA 関西ブロック学生デザイン賞

西日本ブロック

西日本ブロックブロック長
彌中 敏和



1) 道具学会広島フォーラム参加

2025年2月1日。道具学会研究フォーラムが広島市立大学サテライトキャンパスで開催された。戦後80年を記念して、また同学会の提唱者である榮久庵憲司氏の足跡を辿るというふたつの主旨からの当地開催となった。西日本ブロックでは参加費を負担するかたちとして会員に呼びかけた。法人賛助会員であるマツダ株式会社からシニアフェロー前田育男氏に登壇いただき、同デザイン本部からの聴講

者も多数参加された。

上田宗箇流茶道の家元、上田宗岡氏の記念講演を皮切りに札幌からの参加者を含めた10に及ぶ多彩な研究発表が行われ、道具に関わる知見をより広めることができる機会となった。

翌日は広島電鉄株式会社、瀬戸内海汽船株式会社、大和ミュージアムを訪ねるエクスカーションが開催され、広島へ呉にまたがるダイナミックな当地体験が提供された。

2) 広島市デザインセミナー「行政×デザイン」から

JIDA西日本ブロックとして参画している「ひろしまデザインネットワーク」の関連催事として、2025年3月18日に広島市役所講堂で行われた表題のイベントに携わった。行政との協創実績の多いTSUGIの新山直広氏、UMA design farmの原田祐馬氏を迎え、西日本ブロック長の彌中はパネルディスカッションのコーディネートを担当した。ディスカッションでは、行政とデザインの良好な関係や実績づくりはデザイナーが特定の地域に深入りするだけでなく、むしろ広域的に行政マン同士をつなぐ役割から推進力を得る、との意外な発見につながった。課題や悩み、知識の深度が共通している者同士だからこそ、場所の違いがむしろアイデア創出につながるのことであろう。当協会における地域活動はブロック毎でのイベント運営起点での推進が主と考えるが、ブロックごとの違いこそを強みとして活かせるような協会運営視点に期待が高まる経験となった。



クルーズフェリー「Sea Paseo」に乗船して呉へ移動



閉館改装前のミュージアムを滑り込み見学



本会場でのフォーラムの様子



広島電鉄車で車両の解説を受ける。このあと貸切車両にて広島港へ

広報

アニュアルレポートの発行やイベントでの記録保存、SNS等による情報発信、ダイヤモンドオンライン社とのコラボ記事など、広報に関わる多岐にわたる活動を進めた。公式サイト of 広告枠の作成や、会員の方のポートフォリオサイトの構築など、情報発信の基盤も徐々に拡充している。また、公式サイトリニューアルについては、miroなどを用いて委員会内で検討を重ねてきた。より情報発信しやすいサイトを目指して今後も継続的な検討が見込まれる。

広報委員会

委員長：登 豊茂男

Webコンテンツの再構築が本格的にスタートした。それに伴い、Webフォントの統一性を図るためVIマニュアルの微修正も行った。前年度から継続しているダイヤモンドオンラインとのコラボ記事も第2弾企画「デザインでCXはこう変わる」になり、法人会員及び個人会員の活発な執筆がなされた。

1) 出版部会

部長：芝 操枝

2023年度版アニュアルレポートを8月に800部印刷完了し配布した。例年同様36ページの構成であったが充実の内容となった。パンフレットの一部

リニューアルを実施。掲載写真をアップデートし、その他情報も更新。日本語版を1000部印刷完了した。英語版は2025年度に印刷予定。

2) 情報部会

部長：塩田 英人

JIDA Webサイトの再構築を行った。JIDA Portfolioを新たに作成。2025年中にJIDA Portfolioサイトを作成。2025年中に運用を開始予定。開始後は有料のサイトとして運営予定。

またJIDAショップ、メインサイトの修正や追加を行った。

【イベント動画の収録・配信など】

1. 伊藤邦久氏、手描きアイデア・スケッチによるデザインワークショップ2024の収録・編集
2. 石川直樹氏、2025賀詞交歓会 収録
3. 岩本 崇氏、AIセミナー「画像生成AIを駆使し、デザインの可能性を広げよう」ウェビナー配信、収録
4. 森田小百合氏、「デザイナー人生の棚卸し」収録
5. 井上真人氏、欧州デザインNOW2024 収録

3) ギャラリー部会

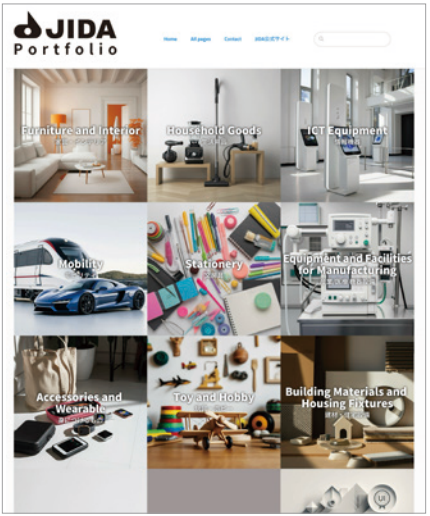
部長：登 豊茂男

JIDA70周年記念、ダイヤモンドオンライン社とのコラボ企画「デザイン経営の輪郭」連載シリーズ第

2弾「デザインでCXはこう変わる」の連載が昨年度からスタートし、会員の佐藤氏、法人賛助会員のJVCケンウッド様の寄稿が掲載された。

JIDAギャラリーにて下記イベントを開催した。

- ・10月18日～27日 DESIGNART TOKYO 2024「PARADOX Series Exhibition」木下陽介氏
- ・12月19日～22日「美味し ぞうの 心 理 学 - the psychology of Looking delicious」倉方雅行氏
- ・2月20日～25日 武蔵野美術大学「卒業制作選抜展」武蔵野美術大学 中原俊三郎氏



JIDA Portfolioサイト



JIDA パンフレット



JIDAサイト miroでの検討



欧州デザインNOW2024



手描きアイディアスケッチによるデザインワークショップ



2025賀詞交歓会



PARADOX Series Exhibition

内務

総務委員会

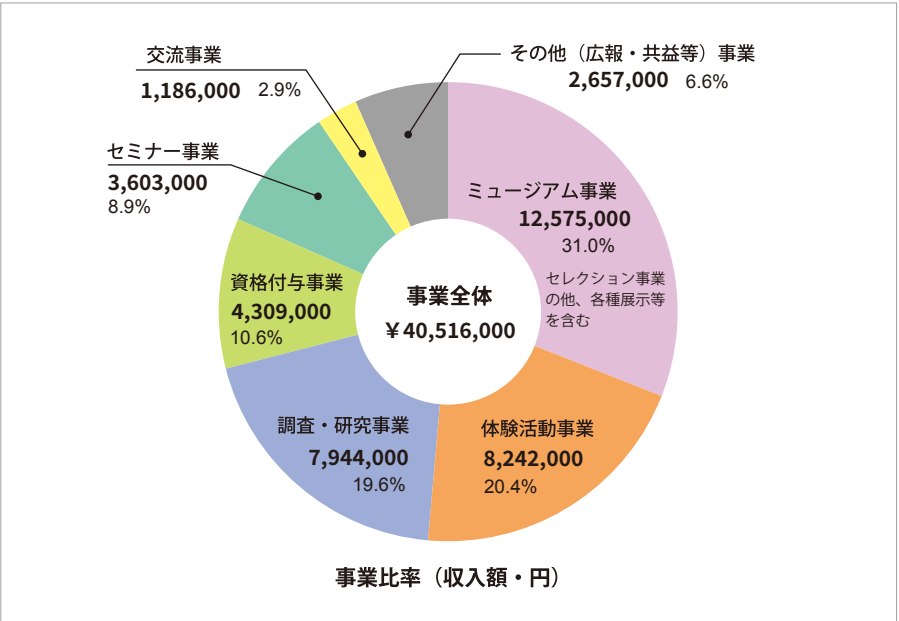
当年度は2024年5月に公布された「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」改正に伴う外部理事・監事の導入義務化に向け、関連する法規（役員規定、役員選挙規則、選挙管理委員会運営の手引き等）の改訂を行った。また、新たに「役員の報酬及び費用に関する規程」を制定した。さらに定款においても変更が必要であったため、総会決議に向けた理事会決議を実施した。外部理事・監事の導入においては、今後も運用上の様々な諸課題が発生する可能性があり、引き続き見直しを実施する。

財務委員会

全体として、数字的には特に問題はなかったが、内容としては不安な要素がないわけではない。2023年度よりも経常収益は増えているが、経常費用が膨らんでおり、当期経常増減額は20万円弱という結果に終わった。2024年度の経常経費が膨らんだ理由として、交通費と消費税の増加が要因となっている。交通費は、23年度受託した中国・美的へのデザインセミナーが2回分24年度に繰り越されたことにより、その交通

費が影響している。また消費税は、23年度までは多かった海外からの収入が24年度は減ったことと、国内受託事業の内製比率が高まり、外注が少なかったことなどが要因となって前年度より増えた。JIDAの事業収益は、ミュージアム事業、調査・研究事業、資格付与事業の3つが柱となっているが、2024年度はISDWを日本で開催したことで、体験

活動事業の事業規模が拡大したことが特筆すべき点である。この事業は3年毎に事業が拡大することが通例となっている。資格付与事業は100万円近く減り、セミナー事業は170万円、交流事業も160万円ほど減となったが、上位3事業の増加により全体では500万円ほどの増となった。



新入会員紹介

正会員（個人）



■川澄未来子
勤務先：名城大学 情報工学部
主な分野：感性工学、色彩工学
E-mail: future@meijo-u.ac.jp
URL: https://www-ie.meijo-u.ac.jp/~kawasumi/
異なる分野の方々との情報交換・交流を通じて新しい発見ができればと考えています。
また、研究室の大学院生達が積極的に活動するきっかけを得たいと思います。



■村上治郎
勤務先：村上設計
主な分野：機械設計
E-mail: mjiro@hera.eonet.ne.jp
同業他社と交流する中での新たな気づき・発見で自己能力の向上。今までの経験を活かし、若い同業者への助言ができればと思います。様々な会に参加したいと思います。



■山本博邦
勤務先：Vani Creates
主な分野：腕時計や医療機器などを主としたプロダクトデザイン
E-mail: info@vani-creates.com
URL: https://vani-creates.com/
会員との交流やイベントに参加し、デザインの知見や活動の幅を広げていければと思っています。



■松本 学
勤務先：フリーランス、日本大学芸術学部非常勤講師
主な分野：インダストリアルデザイン
会員のみなさまとの情報共有や人的交流機会を増し、今後の活動にも活かしていきたいと思っています。科学、生活、ものづくりとデザインといった包括的な視点からデザインが持つ楽しさと可能性を次代に伝えられるような活動にも関わっていきたいと考えています。



■長谷川豊
勤務先：MY-THOUGHTS
主な分野：家庭用業務用電子機器デザイン、デザインマネージメント
E-mail: myt-hasegawa@outlook.jp
企業のインダストリアルデザイナーの為に貢献していきたいと思います。ミュージアム事業選考審査員を希望します。



■大崎一浩
勤務先：OHSAKI DESIGN
主な分野：カーデザイン
E-mail: vivaohsaki@yahoo.co.jp
将来を見据え、会員との情報の交換・交流を通じてより広く新しい発見ができればと考えています。様々な委員会に参加したいと思います。



■小山 肇
勤務先：フリーランス
主な分野：玩具の企画開発デザイン
E-mail: hajime0_0@icloud.com
会員との情報交換・交流を通じて知識を深め、自身の活動にいかし、インダストリアルデザインの普及啓発活動への一助になればと考えています。



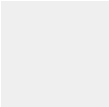
■菅野 秀
勤務先：株式会社346
主な分野：飲料機器、物流機器、医療福祉機器、ロボティクス、ハードウェアスタートアップ支援、他
E-mail: kanno@346design.com
URL: https://346design.com/
国内のデザインリテラシーの向上および製造業界の発展に貢献すべく、入会いたしました。JIDA会員として、デザインがより積極的に経営に参画できるような働きかけをしていきたいと考えています。



■海江田司
勤務先：フリーランス
主な分野：玩具、雑貨等のデザイン
E-mail: zavik303@gmail.com



■松岡浩司
勤務先：株式会社カインズ
主な分野：PBのパッケージデザイン、カラーデザイン
E-mail: k-matsuoka@cainz.co.jp
URL: https://www.cainz.com/
会員との情報交換・交流を通じて新しい発見ができればと考えています。セミナーやシンポジウムへの参加を希望します。



■羅川康次郎
勤務先：creative standard
主な分野：プロダクトデザイン（特に建材・住宅設備・インテリア等）
URL: https://c-standard.com/
デザイナー同士での情報交換や交流を通じて、新しい価値を創出したいと考えています。セミナーやワークショップなどのイベントにも積極的に参加できればと思います。



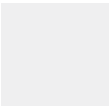
■林田直澄
勤務先：フリーランス
主な分野：プロダクトデザイン
E-mail: nazumihayashida@gmail.com
他社のプロダクトデザイナーの方々との交流を目的として入会しました。JIDAについては学生時代から知っており、当時からお世話になった方々と共に今後は様々なセミナーやイベントに参加したいと考えています。よろしくお願いいたします。



■早川克美
勤務先：京都芸術大学
主な分野：環境デザイン、サインデザイン、デザイン思考、教育工学
E-mail: kats_me@me.com
URL: https://www.kyoto-art.ac.jp/
環境デザインに携わる中で、広く一般の人達にデザインの意識・教養を伝える必要性を感じています。メンバーの皆様と共に、広く社会に向けたデザインの普及に携わり、協会の活動に関わっていただきたいと思います。



■伊藤豊和
勤務先：Req.Design
主な分野：壁紙、床材などの建築資材のエンボス(凸凹)デザイン。車輛の内装材、合成皮革などのエンボスデザイン
E-mail: ito@req.design
URL: https://req.design/
会員の方々との新しいネットワークを通じて、自分のデザインやものづくりの糧にしていきたいと考えています。様々な事業に参加して、協会の発展の一助になれば幸いです。



■石川央真
勤務先：フリーランス
主な分野：キャラクターフィギュアや玩具の彩色
フィギュア業界発展のため、主に彩色業務において貢献し、メーカー様のより良い製品開発に協力したいと思います。同業以外の製品やデザインに携わる方々との技術交流も考えております。



■大野雅史
勤務先：東芝ライフスタイル株式会社
主な分野：家電製品のプロダクトデザインを中心としたブランディング、CMFリーダー兼任。前職では車の内装デザインを担当。
E-mail: masafumi.ono@toshiba-lifestyle.com
URL: https://www.toshiba-lifestyle.com/jp/
会員との情報の交換・交流を通じて、自身の視野を広げ、デザイン関係の幅広い繋がりを構築し、地域活性化やランドスケープに合った提案なども勉強したいと思います。また建築やBtoC製品にも興味があります。



■埴垣万里子
勤務先：東京大学生産技術研究所
主な分野：プロダクトデザイン
E-mail: higaki@iis.u-tokyo.ac.jp
URL: https://pdlab.iis.u-tokyo.ac.jp/
プロダクトデザイナーとしてのものづくり以外に、デザイン教育、新素材と加工技術に興味があります。会員との情報交換・交流を通じて知見を増やしていければ嬉しいです。



■長谷川吉広
勤務先：dada design
主な分野：プロダクト、ブランディング、パッケージ及びWEBデザイン
日本及び世界のプロダクトデザイナーとの交流を深めていきたいと思います。



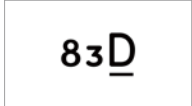
■高橋正実
勤務先：MASAMI DESIGN 代表取締役／国立大学法人豊橋技術科学大学 客員教授
主な分野：分野横断型デザイン、ブランディング、概念デザイン、未来・社会・地域構想等
E-mail: m-takahashi@masamidesign.co.jp
URL: http://www.masamidesign.co.jp/profile/profile.html
ミュージアムセレクションに、ラーメンフォーク とロボットのデザインを選んで頂きましたご縁から、谷村さん、太刀川さんよりお誘い頂き加入致しました。国内ものづくり産業活性化へ、自身の出来る範囲で皆さんと、日本の未来のために、様々な形で行動を共に出来ましたら幸いです。

賛助会員（個人）



■内田 篤
勤務先：東洋製罐グループホールディングス株式会社
主な分野：パッケージ中心に、製造機器他、プロダクトデザイン全般 新規事業及び人材育成
E-mail: uchida50026@jida.or.jp
URL: https://www.tskg-hd.com/ | https://jp.open-up.tskg-hd.com/ideas/
長らく賛助法人会員として活動をしていましたが、本年4月より部署異動がありデザイン業務から離れるため、個人としてJIDAに参加しました。引き続き社会課題研究委員会にて活動したいと思います。

正会員（団体）



■株式会社83Design
https://83design.jp/



■東京設計株式会社
https://www.t-design.co.jp/



■エレクトー株式会社
https://www.erecta.co.jp/

賛助会員（団体）



■株式会社ダイモール
https://www.dymol.co.jp/



■内藤プロセス株式会社
https://www.naito-p.co.jp



■一般財団法人大阪デザインセンター
https://www.osakadc.jp/



■株式会社モリサワ
https://www.morisawa.co.jp/



■住友ベークライト株式会社
https://www.sumibe.co.jp/

2025年8月1日発行

発行人：公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会

理事長：村田 智明

編集：広報委員会 担当理事 小幡真也、委員長 芝 操枝、出版部会長 仲村拓哉

エディトリアルデザイン：株式会社モノグラフィーツ

広報委員会・JIDA事務局

〒106-0032 東京都港区六本木5-17-1 AXISビル 4F

TEL：03-3587-6391 FAX：03-3587-6393

jidasec@jida.or.jp